

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2023年7月27日
第26号

特集▼小樽再発見(4) 山口保氏 運河保存運動の指導者 市議としてまちづくりに貢献

運河保存運動の中でポートフェスティバル(以下ポート)が与えた影響は大きい。ポート三人組の一人である山口保氏は「下町の哲学者」と呼ばれる伝説の人だ。2003年からは、3期12年間、小樽市議会議員もお務めになった。また、サカナクシヨンのリーダー山口一郎さんの父親でもある。山口さんに運動のこと、これからの小樽の課題などをうかがった。

北大院生が再開発モデルを
▼山口さんが運河保存運動で果たした役割は大きかったと推察しています。なぞこの運動に関わるようになったのですか。運動はどのようなものでしたか。
1970年12月

に小樽に来て。翌年「守る会」の幹事になった。その頃、北大大学院生で都市計画を研究していた石塚雅明さん、柳田良造さんがデパートの催事場で「小樽運河保存のための港湾再開発と運河再利用計画展」を開催し、運河をどのように保存再生すべ

小樽再発見(4)



山口保(やまぐちたもつ)氏 76歳
運河論争のオピニオンリーダー。昭和57年に沈め彫り工房「メリーゴランド」開設、平成15年から3期市議。

きを図面や模型を使って市民に提案していた。それは運河沿いの石造倉庫群を文化施設や商業施設として再利用し、水辺を市民が散策できる環境に整備するものであった。これだと思っただけ。交通量などを考慮しても、運河を埋め立てて道路を6車線にする計画は必要ないと考えた。だが、道路事業は決定後に覆すことは難しいことも知っていた。

まちの斜陽化に焦り
当時、小樽は斜陽化し焦っていた。戦後、交易の中心は米国相手になり、太平洋側の苫小牧港に拠点が移ったことも大きい。そもそも、小樽は鯨の漁港から始まり、やがて幌内炭鉱の石炭を鉄道を敷いて積み出す港になり、倉庫が建てられた。日露戦争講和後は樺太交易拠点となり、第一次世界大戦時には欧州に物資を運ぶ国際貿易港として栄えた。三井、住友、第一銀行など名だたる銀行が建ち並び「北のウォール街」と呼ばれるほどで昭和25年まで金融資産第一位だった。人口も最盛期は20万人を超えていた。

当時の市民は広い道路を作れば、近代化からの立ち後れに対処できると思っただろうね。

ヨーロッパの都市に倣え
僕は欧州に3年いたから、文化財が役に立つことは知っていた。たとえばリパブルは羊毛の交易で栄えた港だが、時代が

変われば都市計画を変えて、古い港を市街地に取り入れるまち作りをしている。

日本は港湾法が邪魔をし、補助金の目的以外に使えない縛りがある。

小樽湾は運河中心で解や倉庫を使ってきた。これらの資源を生かすべきだと考えた。

多数派をどう作るか
「運河を守る会」は市民の間ではそもそも少数派だった。この路線で運動を続けても勝ち目はないとみた。僕たちと北大院生はタグを組み、どうやったら運河を残せるかシミュレーションをした。「運河と歴史的建造物はまち作りの中心になる」、「市の財産になる」ことを説いた。賑わいの場を作れば資産価値が上がる。党派を超えて、労組や経済界に働きかけた。サンフランシスコの視察にも行ってもらった。すると、埋立て派の期成会長がひっくり返ったんだ。

運河に人が集まること実証
ポートフェスティバルは社会的な実証実験だった。運河にどれだけ人が集まるか。予想をはるかに超える8万人以上が集まった。

当時、僕は喫茶店を営んでいて、そこに集まる大学生、高校生に手伝ってもらい運河の掃除をした。お金はなかったけど、電気屋さんは無料で祭りの設営に協力してくれた。酒屋さんの

紹介で解をタダで借りた。転落防止柵と渡し板もつけてね。倉庫も借りて、映画上映やシンポジウムに使った。

勝手に店を出すと、もめても困るから、プロの露天商に挨拶に行ったよ。ポートの7、8回目になると法律の規制があつて必要なくなつたけどね。

10万人の保存署名集まる
市民の人の見方が少しずつ変わってきた。「若いのが頑張っている」ってね。5ヶ月で運河保存の10万人の署名が集まった。若者で組織したポートが風穴を開け、世論に運河保存が浸透したところで、新たな受け皿として各界角層を横断した「小樽運河百人委員会」を作った。ポスターを百万円かけて作り、全戸配布した。

僕は役職はなし、事務局として運動に関わってきた。運河の保存・再生はまちの再開発になるとね。

ブランドデザイン必要
まちをどうするか、ブランドデザインが必要なんだ。日本中、至る所に量販店が建ち、小売業が立ち行かず、地方の人口が減っていく。その点、ヨーロッパはまちのデザインのために様々な規制をかけている。日本は自治体が固定資産税をほしいから規制を外すのがいけない。

地場の土産が必要
小樽には観光で人が入ってくる



手宮線跡地

①手宮線の整備、活用
 張碓まで残っている手宮線をJRから買い上げて整備した。小樽築港まで循環させ、観光に活用するよう提案した。鉄道事業

運動より、市議になって行政に働きかける方が早いと思ったからね。次のことに取り組んできた。

▼その後、小樽市議に立候補されて12年間お務めになったと聞いています。市議として何をなさりたかったのですか。

製造業を育てる産業政策をしていない。商品が売れるようにプロを入れてサポートする体制を行政がすべきだ。十勝のECCO(自主衛生管理認証制度)は良い例でイメージ戦略に成功している。六花亭が一例だ。

産業政策が必要
 だが、よそからのものを売っているだけ。地場の土産を作る必要がある。

④景観に合うまちづくりを
 歴史まちづくり法(国交省)の補助金を利用し、歴史的建造物とまちが一体となる、景観に合ったまちづくりをすべきだ。堺町は文化の香りが無い。路上障害物撤去条例や屋外広告物に規制をかけた。景観条例の範囲を広げて建物の高さを制限した。たとえば色内町は7階までとなっている。

③観光都市としての基本計画を策定、宣言、施策
港と道路の活用
 港も観光対象であり、客船ターミナルになるよう働きかけ実現した。臨港線は交通量から考えて、4車線に減線し、2車線を緑地に整備したらよい。国からの補助金も活用する。

(天狗山ロープウェイと夜景)



天狗山の自然を生かし、山頂ハウスを建て替え、観光スポットにする整備計画を提案し進めても

②天狗山の整備と活用
 業法や線路維持費などのハードルはあるが、遊園地にしたら問題は解決する。

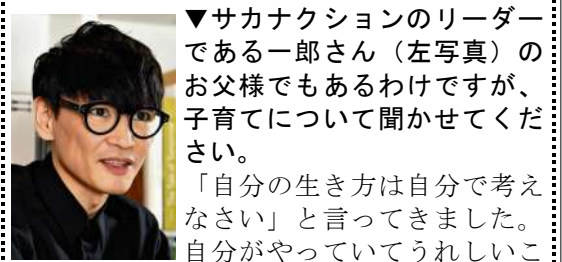


メリーゴーランド木彫工房 HPより

▼メリーゴーランド木彫工房について教えて下さい。
 50年程前、喫茶店を自分で作った。廃材を利用し、50万円です。

山口保さんの子育て

自分で生き方を作りなさい



▼サカナクションのリーダーである一郎さん(左写真)のお父様でもあるわけですが、子育てについて聞かせてください。
 「自分の生き方は自分で考えなさい」と言ってきました。自分がやっていた楽しいこと、集中できることがあれば、よい人生を歩めるはず。自分で生き方を作る。人間は総合力が大事。疑問を持ったら、解決する。自分なら、どうするか、常に考えることが大切だと言ってきました。
 人生の不幸は人と比較すること。息子ははじめ、大学に行きたいと言ってきたが、それほど勉強していないのは知っていたので「大学に行つたと思って音楽をやりなさい」と言ってやりました。だから、今があるんじゃないかな。息子の場合は、自分で「決めたから」と報告することが多いですけどね。

心に響く歌詞を

息子が歌詞を書いて、「みてくれ」と言うことがあるんです。「日記書くような文で歌詞作ってはならん」と言ってやります。日本には俳句があるでしょう。啄木は自己満足だから嫌いだけどね。AIには書けない詩の言葉。中島みゆきの歌詞は伝わるよね。
 電車に乗って普通の生活をするようにとっています。定点ウォッチングすると色々なことに気づくことがある。自分も大学時代にそうしていたからね。

人がやらないことをやる
 お店の常連客が結婚するときに木彫りの表札をプレゼントしたら喜んでくれて、それがやがて新聞や雑誌に掲載され、注文が来るようになった。デパート催事場でも売ることになり、夜中まで働いた。家族を養い、従業員も雇っていたから正月しか休みなすだよ。材木屋の息子だから、木については詳しいんだ。
 「人がやらないことをやる」。アクリル絵の具が水や日光に強いことも味方してくれたね。
総合力、生きる知恵と力を
 ▼高校生にメッセージをお願いします。

勉強しなさい。興味を持ったことは何でも掘り下げて本を読むこと。30過ぎるともうだめ。今は知る喜びがあり、基礎的なことが身につくとき。人間の総合力をいかに身につけるか。無
 今の時代がいつまでも続くと思つたら大間違いだ。経済がグローバル化しているのに未だに国家の形は変わらないから、良い方向には向かわないだろう。国として、個人としてのレベルがあるが、生きるには知恵が必要だ。勉強は中学までで十分だろう。語学はやっておいた方がいい。僕はNHKのフランス語講座で学んだ。人がやるのと同じことではいけない。物知りになると強い。実際に生きる知恵を身につけなさい。
取材を終えて
 勉強について学びました。学校の中では気づけない話でした。「無人島に行っても生き残れる知恵」というのを例に何度も出され、勉強は勉強のためではなく、生き残るためにするものだということを学びました。(1-4 大塚翔太)